

## ◎地域・在宅リハ

座長 万歳登茂子

## 3-7-26 WHO 障害評価スケジュール(WHODAS2.0)のリハビリテーション医療における有用性

愛知医科大学リハビリテーション科

家田 一文, 木村 伸也, 林 博教, 橋詰玉枝子

【目的】国際生活機能分類(ICF)に依拠して世界保健機関(WHO)が開発した障害評価スケジュール(WHODAS2.0)のリハビリテーション医療における有用性を検討すること。【対象】当院リハビリテーション科に受診した患者40例。【方法】WHOが発行しているWHODAS2.0マニュアルを独自に日本語に翻訳して使用した。36項目面接版を用いて直接対象者に面接聴取を行った。同時に機能的自立度評価法(FIM), Frenchay Activities Index(FAI)を測定した。【結果】患者から得たWHODAS2.0の移動・セルフケアに関する領域の合計スコアとFIM(運動)間の相関は-0.78と高かった。WHODAS2.0の家庭生活に関する領域のスコアとFAI間の相関は-0.55であった。WHODAS2.0各領域のCronbach $\alpha$ は0.8以上と良好な内的整合性を示した。WHODAS2.0の実施時間は1回あたり15分~22分であった。【考察】リハ医療対象患者に対するWHODAS2.0の信頼性と有用性を確認した。今後さらに、FIM, FAI両スコアとWHODAS2.0各領域スコア間の詳細な比較、および臨床場面での使用を考慮して、12項目面接版で選択されている項目に限定して検討を行う予定である。

## 3-7-27 自立訓練施設に入所している維持期障害者に対するリハ評価

横浜市立大学大学院医学群リハビリテーション科

菊地 尚久, 佐藤 博信

【目的】自立支援法に基づく自立訓練事業は障害者の社会生活能力を高めるために施行され、地域活動レベルの向上、社会復帰に有効な手段であると思われる。今回施設利用した障害者の特徴を明らかにするために、自立訓練施設に入所した維持期障害者に対して、日本リハ医学会リハデータベース(以下リハDB)の項目を用いて、障害者に対するリハ評価を行ったので報告する。【方法】対象は全国の視覚障害単独を除く入所型自立訓練施設のうち調査への協力を承諾された9施設計148名。対象者に対して平成24年10月~12月の期間に評価を依頼し、複数回評価可能であった症例に対しては施設での訓練効果も検討した。対象者の平均年齢は48歳、男女比は約4:1で男性が多かった。調査項目は原因疾患とリハDBに基づき、運動障害の種別、高次脳機能障害合併の有無、併存疾患の有無、施設での訓練状況、ADL、移動能力とし、在宅での生活状況、社会生活状況、訓練効果を統計学的に分析した。【結果】原因疾患は脳卒中が55.2%、次いで脊髄損傷、脳外傷の順であった。脳外傷では70%以上に高次脳機能障害の合併を認めた。施設での訓練状況はPT/OTの配置が少ない施設では集団訓練対応が多かった。ADLに関しては入浴動作以外が自立している症例が多数であった。在宅での生活状況は単身生活者が多かった。【まとめ】入所者の特徴からさらに有効なアプローチを検討できた。入所型自立訓練施設は機能訓練による社会生活能力を向上させることが期待されたが、一方訓練士の配置が少ないことは課題と思われた。

## 3-7-28 地方大学病院におけるリハビリテーション医療の現状と課題

<sup>1</sup>和歌山県立医科大学附属病院紀北分院, <sup>2</sup>和歌山県立医科大学リハビリテーション医学  
隅谷 政<sup>1</sup>, 田島 文博<sup>2</sup>

【目的】和医大紀北分院は紀ノ川中流の山間地に立地する小規模大学病院であり地域医療に徹することを使命としている。当院の現状を紹介し将来的な課題について考察する。【方法】高齢化の進む紀北地域では医療費の増大を抑えながら高齢者の健康を支えていくことが重要な課題であり、生活習慣病を基礎とした脳・心血管障害や高齢化を背景とする認知機能障害を予防し伸展を抑える方策の確立が望まれている。当院の特徴は地域に密着した医療を行うために救急医療体制を整えており総合診療科や脊椎ケアセンターを有している点にあるが、その中でリハビリテーション科は急性期の入院患者の治療のみでなく維持期(生活期)の通院患者の治療にも継続的に取り組んでいる。過去数年間の診療実績と変遷について後方視的に解析した。【結果】入院治療対象者の約半数は脊椎疾患を主体とした骨関節疾患であり、残りの約半数を脳血管障害と他臓器疾患に伴う廃用状態が占めている。通院治療対象者のほとんどは脊椎疾患であるが他の骨関節障害や内科疾患も合併している者が多い。演者が赴任した2012年度を境として対象疾患や患者数に若干の変化も生じている。【考察】山間地における地域医療を実践する上で急性期病院のリハビリテーション科に求められる事項は何か、また大学病院としての役割は何か、等に焦点を絞って考察を行う。